

コナ禍の松岩寺の年 始末

今夏、七月に花岡博芳著『おうちで禅』（春陽堂書店）という本を出版していたただきました。

読んでくださった方が口をそろえて言うのは、「文より画がよい」。「イラストが和尙にそっくり」といったものでした。画を描いてくれたのは、川口澄子さん。画だけではなくて、『おうちで禅』出版の道筋もつけてくれたのですから、この本は彼女ぬきには誕生しませんでした。

どんな人なのか。プロフィールの一部を『完本・仏像のひみつ』（朝日出版社）という本から引用してみましようか。

〈画工〉一九七三年、兵庫県生まれ。筑波大学芸術専門学群版画領域卒業。

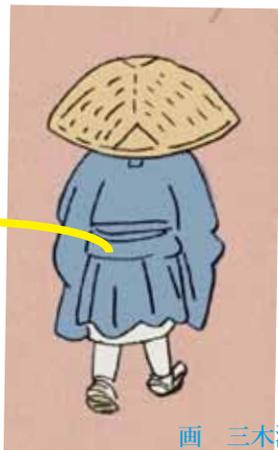
主な著書に『お茶のすすめお気楽茶道ガイド』（WAVE出版）がある。専門的なことを初心者にもわかりやすく、がモットー〈

おそらく、ご自分で書いた略歴だと思えますが、みずからを「画工」と名のつているのが、いさぎよいですね。

略歴をお借りした『完本・仏像のひみつ』で仏像のあらゆる姿を画にしているのが、川口澄子さんです。以前は上巻・下巻の二冊に別れていたのを、まとめて一冊にして今年出版された完本です。上巻・下巻で十



撮影 池利文



腰あげ

画 三木澄子

三万部も売れているという。

目次には、「仏像たちにもソシキがある！」とか、「仏像もやせたり太ったりする！」なんて言葉があつて楽しい。でも、東京国立博物館員であつた山本勉が文を書いているので、学術的にも正確です。仏像を知りたい、という方には必見の一冊。ぜひ、どうぞ！さて、画工・川口澄子さんの凄さを『おうちで禅』のイラストで見ましようか。編集作業時に参考資料をいくつか送つたのですが、その中に二十年以上前にスペインのキリスト教巡礼路を歩いた時の写真がありました。その写真をもとにして描かれた画があります。このどこが凄いのか。この後ろ姿はきちんと腰あげをしているのです。腰あげというのは、和服で旅をする時に、腰の位置でヒモを二重に回して、そこで着物をたくしあげてスソを一時的に上げる旅装です。

修行僧は今でも、この腰あげをして托鉢や行脚にでます。そんな細部まで知っていて、きちんと描写する画家が現代日本で何人おられるでしょうか。この画をみた時、小さくつぶやきました。「さすがー」。そして同感しました。「なるほど、文より画が良い」と。